



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2013.2

No.346

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O

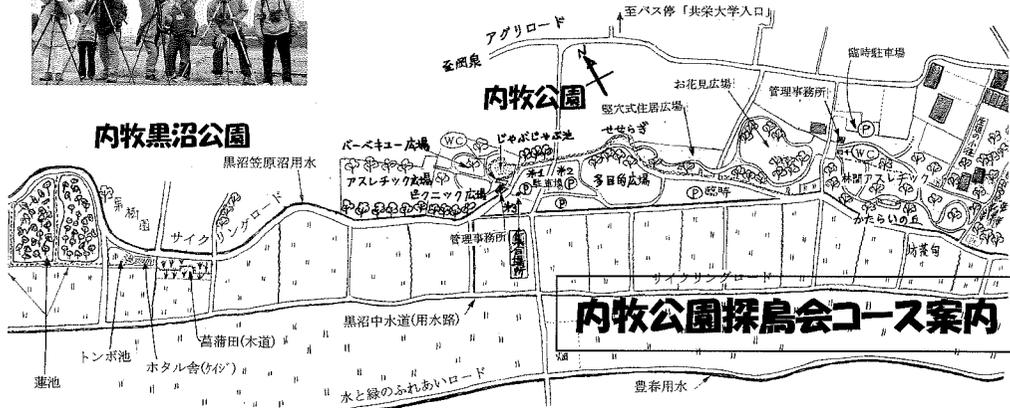


探鳥地・春日部市内牧公園に寄せて

石川 敏男 (春日部市)

昭和 56 年(1981 年)に都内から引っ越してくるまでは緑豊かな内牧(ハマキ)公園の存在をまったく知りませんでした。まだ子供が小さい頃にアスレチックができたので休日に家族で訪れるようになったのが内牧との出会いです。

まだまだ自然の風情が残っているところです。この機会に多くの方々に探鳥地内牧公園を知っていただきたいと思います。



● 探鳥会の記録から

第1回内牧公園探鳥会は1995年1月22日。以来18年間、昨年11月11日の探鳥会で54回。出現(確認)種数は31科80種です。

種数がそれほど多くないのは、探鳥会が春の渡りと秋の渡りの時季を外していることと、大きな河川や池沼がないという環境が影響していると思われます。

この18年間に出現回数が減少したのはシラコバト、ムナグロ、タゲリ、コジュケイです。シラコバトは1998年1月11日の探鳥会で確認されて以降、出現記録はありません。ムナグロは春日部市南部では例年田んぼに通水が始まる前後に飛来します。内牧でも同様に以前は群れて採餌する様子を観察できたものですが、今では時折2〜3羽入る位です。

タゲリも以前は数十羽単位の大群が冬田にいるのが見られましたが、たまにしか飛来しなくなりました。コジュケイは姿を見るよりは声を聞くことが減少しました。

特筆事項としては、2008〜2009年の冬はアトリの大群、2010〜2011年の冬はマヒワの群が飛来。これは全国的な傾向でもありました。

● 探鳥コースの案内

基本的なコースは時計回り(Aコース)：アスレチック広場前駐車場(集合場所)⇒じゃぶじゃぶ池⇒(南東へ)せせらぎ⇒縦穴式住居広場⇒お花見広場⇒小休止・トイレストップ⇒林間アスレチック⇒生垣の小径と屋敷林⇒坊荒句(ボケラカ)のサイクリングロード⇒黒沼中水道沿いのサイクリングロードに出て北西へ⇒車道を横切りとんぼ池・蓮池⇒黒沼笠原沼用水に沿いのサイクリングロードを南東へ⇒アスレチック広場(トイレ有)に戻ります。前半は森林性の鳥、後半は平地性の鳥が期待できます。他は逆順の反時計回りです(Bコースとします)。AかBのコース選択にはその日の風向きを考慮します。黒沼中水道沿ルートは風を避ける所がないので寒い北西の季節風が吹く場合はBコース。前半が追い風になるからです。南寄りの風の場合は後半を追い風にできます。

● コース上の探鳥ポイント

想定時季は晩冬から春の頃です。

★じゃぶじゃぶ池・駐車場側から生垣越しに見ると順光で鳥影を探し易い。開園前にはツグミ、シメ、カワラヒワが水浴し、セキレイ類(ハク、セグロ、時にキ)も飛来。池岸の石

にカワセミがいるかも。池背面はエノキ、ミズキ、スギ、ケヤキ、カキの林で、朝の内ならカラ類、メジロ、アオジ、マヒワ等小鳥が見えます。イカルの飛来記録もあります。

★堅穴式住居広場…コナラ、クヌギ、ミズキの斜面林。芽吹き始めた林冠ではコムクドリ影。林床の落葉を漁るのはツグミ、シロハラ、アカハラでしょうか。林間ではコゲラ、シジュウカラ、メジロの混群かな。年によりヤマガラやヒガラ、コガラが加わったりします。上を、下を、そして中間を注視します。

★林間アスレチックと隣接の屋敷林…コナラ、クヌギ、イヌシデ、エノキ、ミズキ、ケヤキ、ムクノキ等の高木が生え、藪や生垣もあり全体的に暗い環境です。アオジ、ウグイス、シロハラ、アカハラなどを期待できます。明るい林では渡り途中の夏鳥(キビタキ、オオルリ、センダイムシクイ等)やビンズイに遭遇することも。林床ではシメの群が枝と地面を盛んに往来しているでしょう。畑ではトラツグミ、ルリビタキを見たことがあります。

★黒沼中水道沿のサイクリングロード…開けた見通しのきく農道です。数は減ったがまだタヒバリがいます。頭上から降って来るのは揚げヒバリの囀り。田の畔にホオアカが潜んでいるかもしれません。水路の枯草にはセッカが見え隠れ。荒地では藪からキジ雄の艶姿を見るでしょう。上空ではオオタカ、チョウゲンボウの舞う姿が。

★トンボ池と蓮池…前者ではバンが毎年繁殖。小池なのによく頑張ってるなど感心します。枯アシにはオオジュリンがいるかも。後者ではカルガモ、コガモ、コチドリが見られます。近くの桜にはツグミ、コムクドリが止まっていたり、雑木林からはホオジロの囀りが聞こえてきます。コサギ、チュウサギ、ダイサギがいたら体羽の違いを確かめたいものです。

● 最後に

内牧公園は一度に多種類の鳥が出る所ではなく、カメラの“バズーカ砲”が林立するようなこともありません。とても静かで地味な探鳥地です。探鳥会にご参加いただくのもよし、個人で平日に探鳥するもよし。鳥見しない人にも配慮しつつ、当地での探鳥を楽しんでいただければ幸いです。

No.	探鳥会54回での出現種	03~12年冬1月出現回数	03~12年春4月出現回数	03~12年秋11月出現回数
1	カイツブリ	0	0	0
2	カワウ	2	5	1
3	コイサギ	3	0	3
4	アマサギ	0	0	0
5	ダイサギ	4	5	4
6	チュウサギ	0	4	0
7	コサギ	8	9	8
8	アオサギ	2	2	3
9	カルガモ	2	10	4
10	コガモ	1	0	1
11	トビ	1	0	0
12	オオタカ	8	2	5
13	ツグミ	0	1	1
14	ハイタカ	1	0	1
15	ノスリ	1	0	1
16	サシバ	0	0	0
17	チョウゲンボウ	2	0	1
18	コジュケイ	0	4	0
19	キジ	1	9	0
20	ハシ	1	2	2
21	コチドリ	0	4	0
22	ムナグロ	0	1	0
23	タゲリ	0	0	0
24	タシギ	6	3	4
25	シラコバト	0	0	0
26	キジバト	10	10	10
27	ホトトギス	0	0	0
28	カワセミ	1	1	3
29	アオケラ	0	0	0
30	アカケラ	0	0	0
30	コゲラ	10	10	10
32	ヒバリ	8	10	10
33	ツバメ	0	9	0
34	キセキレイ	3	0	2
35	ハクセキレイ	10	9	10
36	セグロセキレイ	8	5	9
37	ヒンズイ	0	1	0
38	タヒバリ	10	4	10
39	ヒヨドリ	10	10	10
40	モズ	10	4	10
41	ミソサザイ	0	0	1
42	ルリビタキ	3	0	0
43	ジョウビタキ	9	0	8
44	ルビタキ	0	0	1
45	トラツグミ	1	0	0
46	アカハラ	2	2	0
47	シロハラ	8	1	1
48	ツグミ	10	10	9
49	ウグイス	5	3	9
50	オオヨシキリ	0	0	0
51	エゾムシクイ	0	0	0
52	センダイムシクイ	0	1	0
53	セッカ	1	4	2
54	キビタキ	0	1	0
55	オオルリ	0	0	0
56	エナガ	0	1	2
57	コガラ	0	0	0
58	ヒガラ	0	0	2
59	ヤマガラ	1	0	2
60	シジュウカラ	10	10	10
61	メジロ	10	9	10
62	ホオジロ	3	3	5
63	ホオアカ	2	1	0
64	カシラダカ	3	0	2
65	アオシ	8	6	8
66	オオシヨリ	1	0	1
67	アトリ	1	0	1
68	カブラヒワ	10	10	10
69	マヒワ	1	0	0
70	ウリ	0	0	0
71	イカル	0	0	1
72	シメ	10	7	9
73	スズメ	10	10	10
74	コムクドリ	0	1	0
75	ムクドリ	10	10	8
76	カケス	4	3	5
77	オナガ	3	4	4
78	ミヤマガラス	2	0	0
79	ハシボソガラス	10	10	10
80	ハシブトガラス	10	10	10

※分類は鳥類目録第6版に準拠

いのしか・ちょう(鳥)

榎本 秀和(鴻巣市)

昨秋、私の住まいの近くの荒川河川敷、通称「大間(おおま)土手」において、ちょっとした事件があった。

まず10月に2頭のシカが出没し、うち1頭が捕獲され、のち死亡した。続いて11月には、体重100kg級を含む3頭のイノシシの足跡が発見され、その後4頭が見つかって、いちばん大きな1頭が罨除(射殺)された。これらの出来事は写真付きで新聞報道もされたので、ご存知の方も多いだろう。地元に住居する者としては、まったく「まさか、まさか」の出来事であった。

我が探鳥のフィールド・大間土手は、関東平野のど真ん中に位置し、けして山深い環境ではない。そんな場所にシカやイノシシが出現するとは考えもしなかったことだが、鳥獣が川沿いに山奥から下りてくることは実際にあり得らしい。

ところで、私は1988年9月に、この大間土手でヤマドリ(若鳥(幼鳥?))ばかりを一度に♂2羽♀3羽目撃したことがある(『しらこぼと』1988年11月号の「野鳥情報」参照)。しかし、どう考えたって、こんなところにヤマドリがいたら不自然ではないか。

そのヤマドリは放鳥されたものか、またはその子孫であろう、と、私は自分なりに納得したのであるが、シカやイノシシが山奥から下りてくるのなら、ヤマドリだって「もしかしたら」という気にもなってくるのである。

我が家の大晦日

大森 桃子(さいたま市)

我が家の大晦日は、ワインなどを飲みつつNHK教育(今はEテレと呼ぶらしい)で“第九”を聞きます。

その第4楽章。合唱が始まる前に、弦楽器が低音でテーマのメロディを奏で始めます。そこに次々といろいろな楽器が加わり、最後に大合唱になるのですが…。私には、まず地中のバクテリアなどの分解者たちが小声で歌

い始め、続いて植物や小動物が加わり、最後に、人間を含め生態系の頂点に立つ生き物たちが加わり、生きとし生けるものすべてが、壮大な生態系の“歓喜の歌”を歌っているような感じに聞こえます。

…という話をすると、たいていの人に「お前、あほか？」という顔をされます。

野鳥記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

●キマユムシクイ

分類 スズメ目ムシクイ科ムシクイ属

英名 Yellow-browed Warbler

学名 *Phylloscopus inornatus*

2012年11月9日付け埼玉新聞に、「10月下旬草加市内でキマユムシクイ成鳥1羽が発見され、埼玉県生態系保護協会の会員が28日撮影した」との記事が、カラー写真付きで掲載されました。

本種は1993年9月3日川口市内のコンビニエンスストアのガラスにぶつかり保護されたのが過去唯一の確認記録(本誌1993年10月第114号)であり、今回は2例目の確認記録です。

なお、2009年10月さいたま市内で撮影された鳥がキマユムシクイかもしれないと、2010年4月写真が寄せられ、当委員会で検討、「現在知られている知見とこれらの写真を比較した限りでは、キマユムシクイとして記録できない」という結論になった例もあります。(本誌2010年6月第314号)

全長10cm。その名の通り黄色みのある白い眉斑が特徴で、2本の翼帯が目立ちます。

シベリア・中央アジア・中国北東部などで繁殖し、インド・中国南部・インドシナなどで越冬。日本には数少ない旅鳥として飛来し、関東以南で少数越冬します。山溪ハンディ図鑑7『日本の野鳥』増補改訂新版(写真・解説: 叶内拓哉)によれば、近年南西諸島では多数越冬するようになったとのこと。



野鳥情報

戸田市さいたま市彩湖 ◇8月10日午前8時50分、水門近くでセイタカシギ3羽。浮島でバン1羽。機場の近くでコチドリ2羽(川名幸男)。◇10月12日、管理橋北でカンムリカイツブリ夏羽1羽、カイツブリ1羽、カルガモ多数。カルガモ群れ中にマガモ♀エクリプス2羽、コガモ♀4羽、ユリカモメ2羽、カワウ、アオサギ1羽、モズ、シジュウカラなど。11月1日、彩湖は水満杯。湖面全体が緑色。緑藻発生か？ カモ類ほとんど見当たらずコガモ4羽のみ。オオバン2羽、カイツブリ3羽、カンムリカイツブリが点々と6羽程、広い湖面に見え隠れしていた。ブイの上でカワウ3羽、ユリカモメ7羽、アオサギ、ダイサギ1羽、釣堀でカワセミ(陶山和良)。

久喜市清久公園 ◇10月7日午前7時頃、ツツドリ1羽、桜並木を周遊。10月8日午前6時頃、コサメビタキ2羽、フライングキヤッチを繰り返す。桜の木の天辺には、エゾビタキ1羽。この季節、こんな小さな地元の公園でも渡りを観察できることを実感した初秋の朝でした(矢沢義雄)。

久喜市昭和沼 ◇10月8日午前8時頃、クロハラアジサシ18羽、急降下からダイビングを繰り返す(矢沢義雄)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇10月16日、村国池にはカルガモ20羽。横の林でアカゲラ、アオゲラ、シメが飛び、カケスが騒ぐ。テストコース両側の林でメボソムシクイ、アリスイ、キビタキ♀、オオルリ♀が枝の中を巧みに移動し、エゾビタキが樹上の枝でトンボを食べている。シジュウカラ、コゲラ、メジロの混群が移動していく。上空をオオタカが南方向に飛び去る。元荒川ではカワウ、ダイサギ、アオサギ、カルガモ。岸辺でイソシギ、コチドリ5羽が採餌

中。10月22日、クロジ♀、ジョウビタキ♀今季初認。10月24日、クロジ♀、♀、若鳥計4羽が飛び回っていた。10月31日、マヒワ50羽土が上空を飛び回る。11月6日、亜種アカウソ♀5羽土が木の実を食べていた。11月8日、ウソ10羽土が入り、アカウソとは別行動(内田克二)。

さいたま市岩槻区岩槻城址公園 ◇11月10日、キクイタダキ2羽、杉の木の枝を飛び回る(内田克二)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇11月1日、東沼でオオバン1羽、泳いで餌を探していた。ここでの初認。11月7日、32羽のマヒワがコスモスのガクを食べては近くの電線に舞い上がっていた。ツグミを今季初めて撮影した。声は11月4日に確認。11月9日、電線にとまっていたミヤマガラス32羽が柱状に上昇し南に流れた。11月19日、屋敷林の上空をオオタカが輪を描いて、西に飛び去った。シロハラ地鳴きを近頃頻繁に聞く。8羽と9羽のツグミの群れが屋敷林の上空を飛び交っていた。カケスが3羽、カシの木を鳴きながら枝移り。この頃、ウグイスの地鳴きが目立つようになった。11月25日、ミヤマガラス26羽が北東から南西に通過。ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラの混群がナンキンハゼの実を啄んでいた。ジョロウグモ♀は寒さに耐えて、まだ健在だ(長嶋宏之)。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇11月7日、ピクニックの森でシジュウカラ、キクイタダキ、アカゲラ、ウソ♀各1羽、モズ、ヒヨドリ(陶山和良)。

鴻巣市袋 ◇11月8日午前7時30分、消防学校裏の元荒川沿いの住宅アンテナにイソヒヨドリ♀1羽、こんな所に!!とビックリ(逸見嶮)。

さいたま市見沼区蓮沼 ◇11月11日、畑の上空をツグミ1羽が「クワッ」と一声鳴いて飛び去る。近くの電線にはミヤマガラス4羽、普通種ヅラしてとまっている。市街地まで進出してきて、そのうち、ほんとに普通種になってしまうのだろうか?(小林み

どり)。

さいたま市見沼区猿花キャンプ場 ◇11月13日、アカゲラ♀1羽、シロハラの声が頻繁に聞こえるが姿が見つからない。11月14日、シロハラ1羽+、ヒヨドリの群れと共にムクノキの上部で枝移りしている。地面を探しても見つからないわけだ(小林みどり)。

春日部市大場 ◇11月14日午後3時頃、武里団地西側、谷中小記念公園の桜の街路樹が続く歩道脇で、シジュウカラ、コゲラの声がする。街路樹の桜を見ていると目前にヒガラ2羽が現れ、人を恐れるでもなく盛んに何かをついばんでいた。そして近くのカイヅカイブキに飛び移り、枯れ枝先に止まる。1m程の至近距離。街中でのヒガラは珍しい。はじめはコゲラ1羽、シジュウカラ2羽、ヒガラ2羽の小群だったが、後からシジュウカラ、ヒガラの数が若干増え、更にメジロ7~8羽が加わり、ジョウビタキ♀1羽とカワラヒワ3~4羽が見物にやってきた(石川敏男)。

さいたま市北区芝川(県道2号線~鷲山橋)

◇11月19日、ハシビロガモ♂換羽中2羽、♀1羽、♀型2羽(休息中のため虹彩の色が見えず、♀か♂エクリプスカ判別不能)。キンクロハジロ♂エクリプス1羽(小林みどり)。

さいたま市岩槻区岩槻城址公園 ◇11月19日午後3時30分頃、アオゲラ♂1羽。この場所であオゲラを見るのは2001年12月以来(菊川和男)。

春日部市大場・増田新田・武里中野 ◇11月20日午後12時10分頃、自宅近くの県道野田岩槻線・大場橋の横断歩道で信号待ちの際、そばの電柱でハシボソガラス1羽が「ガアアー・・・」と鳴くので空を見上げると、北西の季節風に煽られながら飛ぶノスリ1羽が目に入った。急いで双眼鏡を取り出す。快晴順光で鮮明に幅広い薄褐色の翼下面、両翼角の黒斑、扇形の尾を確認。上空を北西方向へ、次いで北東へ旋回しつつ遠ざかっていった(石川敏男)。

羽生市羽生水郷公園 ◇11月28日、芝生でハ

クセキレイ17羽が採餌。その中に顔の黄色い若鳥も数羽いた。ノスリがとまっている電柱の上の段で、スズメ10数羽とカワラヒワ4羽が普段通りに振る舞っていた。ヤマガラとヒガラとシジュウカラがナンキンハゼの実をついばんでいた。その他、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、コガモ、ジョウビタキ、ツグミ、ホオジロ、カシラダカなど(長嶋宏之)。

加須市加須はなさき公園 ◇11月24日、ヒドリガモ、チョウゲンボウ、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、モズ、ツグミ、ウグイス、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、シメ、カケスなど(長嶋宏之)。

さいたま市緑区芝川第一調整池 ◇11月24日、カワアイサ♂1羽、ここでは初めて。チュウヒ2羽、オオタカ、ノスリ、チョウゲンボウ。一番高い鉄塔にハヤブサ。その他にカンムリカイツブリ、ハジロカイツブリなど。11月28日、オオハクチョウ2羽飛来、親子。これで3年連続(野口修)。◇11月29日午前9時30分~11時、コハクチョウ2羽(内1幼鳥)、ハジロカイツブリ2羽、ジョウビタキ♀、シジュウカラ、ツグミ、シメ、モズ、カワセミ、ホオジロ、アオジ、チュウヒ、アオサギ、カワウ、オカヨシガモ、カイツブリ、コガモ、オオバン、カルガモ(大塚操)。

富士見市びん沼公園 ◇11月26日、キクイタダキ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、コゲラの混群数十羽に囲まれる。すると足元からカタカタ、物音が…見るとスコープの三脚にヤマガラ。その後も数メートルの距離を飛び交い、しばらく遊んでもらいました(石塚敬二郎)。

表紙の写真

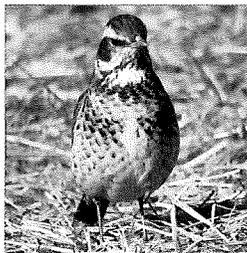
スズメ目メジロ科メジロ属メジロ

2008年1月、陽春を感じる光景でした。

鶺鴒飼喜雄(深谷市)



行事案内



ツグミ(大坂幸男)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：2月2日(土)

集合：午前 8 時 45 分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前 9 時 15 分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。

交通：東武東上線川越 7:57 発、または寄居 8:04 発に乗車。

担当：千島、新井(巖)、中村(豊)、鶴飼、持丸、松下

見どころ：雑木林でカラ類の混群、シメ、アオジ、草地でカシラダカ、河原でクサシギ、イカルチドリ、畑でタヒバリ、ヒバリ、上空にはオオタカ、ノスリが飛んでいる予定。

狭山市・智光山公園探鳥会

期日：2月3日(日)

集合：午前 9 時 30 分、智光山公園管理事務所前。

交通：西武新宿線狭山市駅西口から、智光山公園行き 9:10 発バスで終点下車。

担当：石光、藤掛、久保田、山本(真)、小林(ま)、星、水谷

見どころ：林地、水路、池と自然環境に富んだ都市公園で冬鳥を効率良く楽しめます。今冬も期待出来そうです。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：2月3日(日)

集合：午前 9 時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、須崎、倉林、若林、赤堀、藤田(敏)、野口(修)、大井

見どころ：富士山、男体山、東京スカイツリーを一望。見上げれば猛禽、湖面には白鳥、思いがけない出会いに期待しましょう。

ご注意：途中トイレがありません。天候によってはコースを変更します。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月3日(日)

集合：午前 9 時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR 高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:36 発で「自然観察公園前」下車。(1本前の 8:19 発も「公園前」を通るようになりました)

担当：吉原(俊)、浅見、大坂、内藤、相原(修)、岡安、立岩、永野、山野、飛田、関口、吉原(早)、相原(友)、柴田、長谷川

見どころ：この冬の石戸宿は、色とりどりの野鳥たちで大賑わいです。鳥との距離が近いので、双眼鏡なしでも楽しめます。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：2月7日(木)

集合：午前 9 時 10 分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場

交通：JR 武蔵浦和駅東口②番バス乗り場から、下笹目行き 8 時 40 分発で「彩湖道満グリ

ーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り、左折して土手を越える。

担当：倉林、有馬、松村、新部、赤堀、赤坂
見どころ：平日の会です。昨年は何人かベニマシコを見た方がいましたが、今年はミコアイサを皆で見たいですね。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月10日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:51発に乗車。

担当：榎本(秀)、新井(巖)、鶴飼、倉崎、栗原、千島、飛田、中川、村上、森本
見どころ：冴え返る朝の野山のそこかしこに、鳥たちの気配を感じる今日この頃。この冬は、期待がふくらむ大麻生野鳥の森です。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：2月10日(日)

集合：午前9時30分、西武狭山線西武球場前駅前。
担当：石光、長谷部、久保田、高橋(優)、持丸、小林(ま)、水谷
見どころ：カイツブリ類、カモ類をはじめ冬鳥が一番出揃う時期です。雪の富士を背景に猛禽が舞ってくれば言うこと無し！

群馬県・小根山森林公園探鳥会

期日：2月10日(日)

集合：午前10時、信越本線横川駅前。
交通：JR高崎線大宮7:50→高崎で信越本線乗り換え9:11発にて終点下車。
解散：午後3時30分頃、横川駅前。
担当：入山、玉井、浅見、星、藤澤、野口(修)、間正
見どころ：駅前から小根山森林公園まで歩きます。途中で何が出るかは来てのお楽しみ。赤・青・黄色の3色が揃うといいな～。
ご注意：昼食持参(森林公園まで釜飯の出前ができます。注文は集合時に行います)。健脚向き(探鳥コースは往復で約7km。一部の区間で急な坂を登り下りします)。積雪の可能性があるので、防水・滑らない靴で

お越してください。過去2回は雪道でした。杖があると歩くのに便利です。

さいたま市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月11日(月・祝)

集合：午前9時、JR宇都宮線土呂駅東口。または午前9時20分、市民の森入口前(土呂駅東口から徒歩約5分)。
担当：青木、浅見、小林(み)、赤坂、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、有馬、金子、田中、松村、藤原、山田、工藤
見どころ：見沼たんぼで一番北側の探鳥会開催地です。今年は冬鳥も盛りだくさんです。皆さまのお越しをお待ちしております。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月16日(土)

集合：午前8時、丸山公園北駐車場。
交通：JR高崎線上尾駅西口①番バス乗り場から、西上尾車庫行き(畔吉経由)7:32発で「畔吉」下車、徒歩約8分。
担当：大坂、浅見、阿久澤(キ)、阿久澤(廣)、柴田、立岩、永野、野口(由)、長谷川、山野
見どころ：冬枯れの林でアリスイやジョウビタキに会えるかも？ オオタカの出現にも期待。河川敷も歩きます。防寒対策を。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月16日(土)

集合：午前9時15分、森林公園南入口前。
交通：東武東上線森林公園駅北口から、立正大学行き8:42発バスで「滑川中学校」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。
費用：参加費以外に入園料400円(子供80円)、65歳以上200円(要：年齢証明できるもの)。
担当：中村(豊)、藤掛、内藤、岡安、佐久間、藤澤、宇野澤、松下
見どころ：陽だまりの雑木林は早くも春の気配。アフターは花木園に回り、見頃を迎えた梅の花見はいかがでしょう。
ご注意：集合時刻が早くなっています。バス時刻と下車する停留所にもご注意下さい。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：2月16日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：2月17日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。(注：担当者は8時過ぎに北浦和駅東口到着の予定です)

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：須崎、青木、浅見、倉林、小林(み)、赤堀、宇野澤、楠見、小菅、柴野、新部、増田、畠山、若林、渡辺

見どころ：まだまだ寒い季節ですが冬鳥は勢ぞろい。いっしょに冬鳥を探しませんか。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：2月17日(日)

集合：午前9時20分、坂東大橋南詰近くの「つきみ荘」北側。

交通：JR高崎線本庄駅北口から、国際十王バス9:06発伊勢崎行きで「坂東橋南詰」下車。

担当：新井(巖)、小池(一)、小池(順)、倉崎、千島、小淵、鵜飼

見どころ：昨年2月には、カワアイサ、ミコアイサ、ホオジロガモも加わり、にぎやかでした。小鳥たちも待っています。

ご注意：河原が砂利で歩きにくくなっています。足拵えはしっかりと。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：2月17日(日)

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口、スーパー・サミット前の円形広場。

担当：持丸、佐久間、高草木、荒木、志村、神場、杉原、鈴木、藤澤、中村(治)、中村(祐)、山口

見どころ：寒かった冬もそろそろ終わりに近づいてきました。冬鳥を見ながら柳瀬川の土手を散策しましょう。

さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月24日(日)

集合：午前8時35分、東武野田線岩槻駅前、集合後バスで現地へ。または午前9時、文化公園国道16号側駐車場。

交通：東武野田線大宮8:19発、または春日部8:17発大宮行きで岩槻下車。

担当：長野、玉井、田中、石川、吉安、長嶋、野村(弘)、榎本(建)、小林(善)、内田(克)

見どころ：12月の探鳥会では41種と久々の大収穫。今回はぜひウソやキクイタダキに出会いたいものです。

東松山市・物見山探鳥会

期日：2月24日(日)

集合：午前9時30分、物見山駐車場(峠を越えた右側)。

交通：東武東上線高坂駅西口、川越観光バス鳩山ニュータウン行き8:51、9:03発で「大東文化大学前」下車、バス進行方向へ徒歩約5分。

担当：千島、藤掛、中村(豊)、岡安、増尾、志村、増田、松下

見どころ：林ではカラ類の混群、キクイタダキ、ビンズイ。谷津ではベニマシコ、カシラダカ、オオタカ、ノスリが姿を見せられるでしょう。ルリビタキ、ミソサザイも期待。

行田市・利根大堰探鳥会

期日：2月24日(日)

集合：午前8時10分、秩父鉄道行田市駅南口、集合後8:19発市内循環バスで「老人福祉センター」下車。または午前9時、見沼元塚(みぬまもといり)公園駐車場。

交通：秩父鉄道羽生7:49発熊谷行き、秩父鉄道熊谷7:55発羽生行きで、行田市駅下車。

解散：午前11時30分頃、見沼元塚駐車場。

担当：入山、小林(み)、内藤、関口、村上
見どころ：カモの仲間を中心に水辺の鳥達を観察します。上を見れば、猛禽が飛ぶかも。

ご注意：秩父鉄道ではスイカ・パスモが使えません。バス代は、片道100円。帰りは老人福祉センター11:51発、または15:26発、行田市市内循環バス北西循環コース(右回り)に乗車。防風・防寒対策を十分に。



行事報告

10月21日(日) 川越市 西川越

参加：42名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ チョウゲンボウ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 10月下旬なのに暑い。そのせいか鳥が少ない。それでも、いつものモズ、入間川ではカワセミが2羽、そしてなんとノビタキが。最後にチョウゲンボウが出てくれてほっとした。(佐久間博文)

10月27~28日(土~日) 長野県 戸隠高原

参加：34名 天気：27=晴、28=雨

コガモ キジ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ ジョウビタキ アカハラ マミチャジナイ ツグミ ウグイス キビタキ ムギマキ エナガ コガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ マヒワ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (35種+タカ科不明種1) 天気予報を考慮して、ムギマキとマミチャジナイを見ることを優先。お決まりの場所で早速ムギマキを確認。カメラマンが大勢いたので道を引き返し、小川の小道を行くと、ツルマサキにマミチャジナイ、アカハラ。目的を果たして一安心。ゴジュウカラ、キバシリも見ることができ、戸隠が初めての方も常連も満足の様子。探鳥後、夕食前に温泉で体を暖めた。2日目は予報通りの雨。朝食前に宿周辺で観察。朝食後は再びムギマキ、マミチャジナイを観察。カメラマンも少なく、ゆっくり観察できた。アカハラやマミチャジナイ、アカゲラ等がやってくるので飽きなかった。天気も悪く、種類数は少なかったが充実した探鳥会だった。(菱沼一充)

10月28日(日) 行田市 さきたま古墳公園

参加：23名 天気：雨

マガモ カルガモ オオタカ チョウゲンボウ キジ バン キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) (番外：ドバト) 小雨の中で決行。狙いは、やはりジョウビタキだ。出た。中の山古墳の手前。そのあと浅間神社の社叢を抜けたいつもの場所でも。晴れていれば鮮やかな緋色が見えたのに残念だった。年々落葉が遅くなっている感じがしている。それだけ気候が暖かくなっているのだろう。そのためにカモの飛来数も減少、遅れているとすれば寂しい。最後はいつもの場所でバンを見て無事終了。サギ類とカワウが出現しなかったのは、今までなかった現象。(内藤義雄)

11月4日(日) 行田市 利根大堰

参加：32名 天気：快晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ トビ ノスリ ハヤブサ オオバン タゲリ ハマシギ イソシギ セグロカモメ キジバト カワセミ アカゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ コクマルガラス ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) (番外：ドバト) 集合場所の近くの鉄塔でハヤブサ君がお出迎え。みんなで見たので、恥ずかしがって隠れてしまった。土手を上がり利根川を見るとたくさんのカモが泳いでいる。エクリプスは少なかったが、皆さんそれなりに識別を楽しんだと思う。帰り道にミヤマガラスの群れが近くまで来てくれた。利根川を遡上するサケの姿も見ることができた。(入山 博)

11月4日(日) 上尾市 丸山公園

参加：36名 天気：快晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ トビ ノスリ チョウゲンボウ タゲリ キジバト アカゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ

リ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス セッカ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ シメ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) (番外:ドバト) 今年はやマガラが多いとか。スタートして直ぐにヤマガラが出た。その後園内は静かで、ただ黙々と歩くのみ。トイレ休憩で園外の住宅の屋根にジョウビタキ♀を見て少し気が楽になった。修景池のカワセミには残念ながら会えなかった。公園を出て荒川の河川敷に向かう途中、林間でアオジ、シメがでる。土手に上がって霞んでいたが真白き富士を観て、遠いモズを見ただけで先に進む。空中ではノスリにチョウゲンボウがモビングしていた。後方の人達はツグミ、アトリなど冬鳥を見たとのこと。11月も初旬なのに冬鳥が多種来ているのが確認できて良かった。

(大坂幸男)

11月8日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加:32名 天気:晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ トビ オオタカ ノスリ チュウヒ チョウゲンボウ バン オオバン キジバト ヨタカ カワセミ アカゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス セッカ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) モミジバフウのきれいな紅葉をながめながらスタート。林の中ではヤマガラがエゴノキに群がっている。しばらく進むと呼び止める声がある。リーダーA氏があわてた様子で呼んでいる。何事かと引き返すと、なんとヨタカだ。枯れたヤナギの横枝にうずくまっている。時々半目を開けて首を動かして廻りの様子を窺っているように見える。全員がその場に釘付け。ここではヨシガモが年々増えているが、これも堪能できた。タカ類も飛んでくれて楽しかった。(中里裕一)

11月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加:31名 天気:曇

カワウ カルガモ トビ ノスリ ハヤブサ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シ

ロハラ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ ミヤマホオジロ アオジ クロジ カワラヒワ ウソ コイカル シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) (番外:ガビチョウ) スタート前から木立にツグミやシメが現れる。土手に上がるとすぐに鉄塔で休むハヤブサが見られ、とりあえずホッとす。アオジ、モズなどを見ながら進むと、野鳥の森の手前で何とコイカルが出現し、全員がしっかり観察。半分以上の人が初見で、大盛り上がりだった。人気のクロジ、ウソ、ミヤマホオジロはごく一部の人のしか見られなかったが、カワセミ、シロハラ、ジョウビタキも皆に姿を見せてくれ、満足度の高い探鳥会になった。(新井 巖)

11月11日(日) 春日部市 内牧公園

参加:37名 天気:曇

コサギ アオサギ カルガモ オオタカ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ノビタキ ツグミ ウグイス ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) (番外:ドバト) 開始早々、“じゃぶじゃぶ池”にカワセミが出るもすぐ飛去して一部の人のしか見られず残念。今回初めてパーベキュー広場に入り、まだ葉を残すエノキの大木を見上げると小鳥の混群。シメがいる。シジュウカラに混じってヒガラもいる! コゲラは幹で啄む。首が痛くなった。周りの柿の木はたわわに実を付け、そこへメジロ、ツグミ、シメ、ジョウビタキが飛来。ひこ生えの田んぼではタヒバリが飛び交い、渡り遅れ?のノビタキがいた。終盤では“せせらぎ”近くで再び小鳥の混群に出会い、あまり人を恐れるでもなく桜の枝先に止まってくれたヒガラ1羽に全員釘づけとなった。山に行かなくても平地で身近に見られるとは幸運である。ヒガラに始まりヒガラで終わる。晩秋の小鳥類を楽しんでいただけたと思う。(石川敏男)

11月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア:12名

相原修一、江浪功、榎本秀和、海老原教子、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫、吉原早苗、吉原俊雄



●表紙の写真などいつも募集しています

今月号表紙の写真は、撮影 2008 年 1 月、ご投稿は同年 11 月。それがなぜ今？ そんなこともあるのです。応募作品が重なったり、何らかの事情で掲載を見合わせている内に時機を失い、大切に保存箱に。そして数年後、担当者が再発見して喜んで掲載、というわけです。遅くなって申し訳ありません。

応募資格は会員に限ります。鳥は県内に限りません。コメントを添えて、下記編集部への原稿メールアドレスにお送りいただくか、2 L 版プリントを事務局にお送りください。プリントをお送りいただく場合は、1 枚ごとに撮影年月日・場所・撮影者名を裏面に記載、またはメモ貼付をお願いします。

採否は編集部にお任せください。トリミング、画質調整、少しの加工をさせていただく場合もあります。

毎月お手元に届く『しらこぼと』を見ると表紙の写真は十分あるように思われるかもしれませんが、実は編集部ではいろいろ苦労しているのです。特集記事、短報、野鳥情報なども常時募集しています。

●会員の普及活動

12 月 15 日 (土) 坂戸市環境学館いずみの講座「バードウォッチングウォーキング」が、同館から高麗川沿いに入西こはるが池まで往復するコースで開催され、坂口稔と増尾隆が指導しました。観察種 28 種、参加者 15 名。カラス 2 種の識別と、「ジョ

ウビタキを見つけよう」が、当日の目標でした。

●会員数は

1 月 1 日現在 1,891 人。

活動と予定

●11-12 月の活動

11月21日(水) 見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワーク平成24年度第3回運営会議に出席(小林みどり)。

12月8日(土)と10日(月) 1月号校正(小林みどり、志村佐治、長嶋宏之、藤掛保司、山田義郎、海老原美夫)。

12月16日(日) 役員会(司会：相原修一、各部の報告・新ハイキングクラブ行事の探鳥指導・羽生水郷公園から共催申し入れ・その他)。

12月17日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け1月号を発送(倉林宗太郎)。

●2月の予定

2月2日(土) 編集部・普及部・研究部会。

2月9日(土) 3月号校正(午後4時から)。

2月16日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

2月17日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

2月は探鳥会が 17 件も！ 皆さんのからの原稿を、泣く泣く削って 3 ページに納めました。リーダーの皆さん、ごめんなさい。(浅見)

近年スズメも少なくなったと言うけれど、今冬たんぼや畑で見るスズメは例年より多い気がします。団子状の大群になって飛ぶ姿をよく見かけます。私だけかな。(山部)

しらこぼと 2013 年2月号(第 346 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社